

# 福祉みやぎ

3 2018  
月号  
vol.596

福祉みやぎ

vol.596

平成30年

3月15日

発行

## 「welcome うえる」

- 放課後等デイサービスうえる (塩釜市)
- 作者名:うえるのなかま

今回の表紙掲載の話を受けて、「何か皆で作りたいね」、そんな想いが集まり、子どもたちの間でブームとなっているアイロンビーズの工程を、色分けから制作、アイロンまで、ひとり一人の子どもたちが「自分のできること」をして完成しました。うえるは毎日、子どもたちの笑顔でいっぱいです。「うえるへ、ようこそ!」

## CONTENTS

(主な内容)

### 特集

- P2 よりそいホットライン  
～自殺防止ライン～
- P4 Heart&Works  
人と人をつなぐもの  
～アニマルセラピーを通して～
- P6 ひと・まち・こころ
- P7 キラリ☆仕事人
- P8 ちいきをつ・な・ぐ
- P9 市町村社協のここがイチオシ!
- P10 復興宮城のいま
- P11 みやぎいきいきシニアだより
- P12 県社協掲示板



お問い合わせ  
〒985-0003 宮城県塩釜市北浜1-13-33 電話: 022-290-5337

編集・発行/社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-2-3 TEL 022-225-8476(代) FAX 022-268-5139  
印刷/株式会社ソノバ 奇数月15日発行 URL <http://www.miyagi-sfk.net/>

## 県社協掲示板

Information



### 温かい真心をありがとうございます

下記の方々から本会に寄附金をいただきました。  
温かい真心に感謝申し上げます。(平成30年2月19日現在)

平成29年12月21日 JXエネルギー労働組合東北支部さまより 県社協で運営している施設のために …… 3,000円	平成29年12月26日 法人のために …… 100,000円
平成30年1月5日 株式会社ブリッジさまより 社会福祉事業のために …… 71,160円	平成30年1月30日 株式会社河北新報社さまより 社会福祉事業のために …… 469,609円
平成30年2月6日 株式会社ブリッジさまより 社会福祉事業のために …… 25,000円	交通海難遺児のために …… 92,999円

### 会員の募集について

本会では活動の主旨に賛同いただき、地域福祉の推進に御協力いただける団体または個人の会員を募集しています。

**〔会員区分〕**

- ・第二種会員(社会福祉施設)
- ・第三種会員(社会福祉関係団体)
- ・賛助会員(団体及び個人、一口一万円から受け付けています)

**〔お問い合わせ〕**  
宮城県社会福祉協議会 総務部 企画・財務課

**〔電話番号〕**  
022(263)0949

### 宮城県社会福祉法人で働く正規職員を募集しています!

宮城県社会福祉協議会では、本会で運営している各種運営している各種社会福祉施設において業務に従事する正規職員を募集します。  
平成30年度の採用案内については、随時ホームページにて掲載するとともに、就活情報サイト(マイナビ・リクナビ)にも掲載しますので、ご覧ください。  
勤務先: 宮城県社会福祉協議会が管理運営している県内の社会福祉施設。  
主に仙台市泉区・太白区・大和町の特別養護老人ホームや障害者支援施設などです。

### みちのく仙台ORI☆姫隊に来ていただきました!

平成29年12月25日(月)に、障害児福祉施設 宮城県啓佑学園をみちのく仙台ORI☆姫隊が訪問し、歌やダンスのパフォーマンスを披露してくださいました。  
誰もが知っているアニメの曲や、2020年東京オリンピックの応援歌など元気に歌って踊るORI☆姫隊を観て、手拍子をする方、立ち上がって踊る方など、利用者さまも職員もおおいに盛り上がりました。開催日がクリスマスということもあり、途中にはサンタさんが登場。お菓子和コップのプレゼントをいただきました!  
パフォーマンス終了後も、利用者さまが会場を出るまで見送りをしていただき、ORI☆姫隊のメンバーとハイタッチをしながら会場を後にする利用者さまの顔は、いつにも増して笑顔にあふれていました。  
みちのく仙台ORI☆姫隊のみなさまに心より感謝申し上げます。来年も是非お待ちしております!



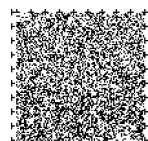
▲笑顔はじけるパフォーマンスに会場は大盛り上がり



▲サンタさんとORI☆姫隊からクリスマスプレゼント「中身はなにかな～」



▲立ち上がって踊りだす方もいました。「気分はORI☆姫隊!」



この印刷物は、植物性油インキを使用し、環境にやさしい水なし印刷方式を採用しています。



「福祉みやぎ」は宮城県社協のホームページでもご覧になれます。また、ご意見、ご感想、とりあげて欲しいテーマなどをお寄せください。表紙の作品も募集しています。

# よりそいホットライン

## 自殺防止ライン

よりそいホットライン 仙台みやぎ地域センター 清野智賀子



### よりそいホットラインって？

よりそいホットラインは、厚生労働省・社会援護局、及び復興庁の補助金を得て実施している「寄り添い型相談支援事業」で、24時間365日フリーダイヤルの「どんな人の、どんな悩みにもよりそい」電話相談を行なっています。全国初の「匿名・何でも・いつでも・無料」の電話相談は、電話での相談対応だけでなく、

インと専門ラインと呼ばれるラインにつながります。この他、被災三県以外では、被災者、被災避難者の悩み（広域避難者支援ライン）があり、より専門的な相談対応が求められる相談にも対応しています。

「何でも相談」と言っ包括的なよりそいホットラインの電話相談は、フリーダイヤルに電話をかけるとガイダンスが流れ、番号を選択すると一般ラ

既存の社会資源にはないものを「つくる」事も実施しています。この「何でも相談」と言っ包括的なよりそいホットラインの電話相談は、フリーダイヤルに電話をかけるとガイダンスが流れ、番号を選択すると一般ラ

### 自殺防止ラインは全国の約2倍

昨年度、よりそいホットラインにかけられた電話総数は1,120万件を超え、その中で相談に繋がった数は24万件、その内訳として、何でも相談に対応する一般ラインは77・1%、自殺防止ラインは12・2%、女性支援ラインは12・2%、セクシャルマイノリティライン2・8%、外国語ライン・広域避難者支援ラインは0・4%、若年女性支援ラインは0・2%の割合となっています。この中で特徴的なのが、被災地の自殺防止ラインを選択する割合は全国の2倍近くになっていることです。

この自殺防止ラインに求められる

### 「生きる」という選択肢へ

ものは緊急対応（自殺未遂のための警察や医療機関への対応）など、専門的な知識や経験が求められます。知識として必要なことは「社会問題として自殺に対する理解があること・自殺に関わる社会資源を把握していること」があげられ、経験として「自殺念慮を持つ相談者の気持ちに向き合う姿勢」が求められます。自殺防止ラインに寄せられる相談者の背景には、家族との不和、仕事、借金、依存症、病気など生活全般領域にまたがる辛さや困難があり、このラインを選択する相談者には、そうした困難が「生きる事がつらい」とまで思わせてしまっている状態（自殺念慮を抱えている状態）に至っているということなのです。

そうした自殺念慮が強い相談者は直接的で明確なリスクを抱えています。その相談者が電話を通して相談員との対話をする中で、「自殺」という選択肢から別の選択肢の可能性

に目を向ける機会となることこそが自殺防止ラインに求められる役割だと思えます。

自殺の要因の多くは単一の問題ではなく、複数の問題が連鎖した末に引き起こされている事がこれまでの実態調査で明らかになっていますが、一方で、その背景にあるさまざまな問題に対応できる支援制度や相談機関は、ほとんどの場合存在しているという事実もあるのです。例えば、うつ病・うつ状態には精神科医

療機関や保健所など、失業にはハローワークやさまざまな就労支援制度、生活苦には生活保護や生活困窮者自立支援制度などがあります。しかし、個別の問題に対しての相談機関や支援制度はあっても、それぞれの連携がなく、その問題のみの対応では、複数の問題を抱えた人の問題解決にはなかなか繋がらないともいえるのだと思えます。

関に行っており、その相談に行っていた人のうち6割以上の方が、亡くなる1ヶ月以内にも何らかの相談機関に行っていた事が分かっています。自分の抱えている問題について「何とかしたい」と相談に行っているにも関わらず、抱えていた複数の問題のうち一部の解決にとどまり、相談者の複合化して追い詰められた状況の打開にはつながっていないという現状の一端をあらわしている様にも思えます。また、一向に打開されない状況が続く事で「もう死ぬしかない」と言う心理的視野狭窄の状態に追い込まれることも少なくないと思われます。この様に個人の自由な意思や選択の結果ではなく、自殺の多くは「追い込まれた末の死」ともいえる事ができます。死にたいほどのつらい気持ちを誰かに簡単に話す事はできないし話す場もないのが実情です。

重大な問題として捉え皆で考える事が大切だと思います。「死にたい」と追い込まれた人をいかに支えるのか？その気持ちを話せる場がまだまだ限られている社会的状況の中で、よりそいホットラインがどのような役割を果たしていくかを考えると、「死にたいほどつらい気持ち」を正面から受け止め、対話を通してやり取りし、同時にその気持ちの原因や背景となっている事柄の問題解決をすべく、社会資源へのつなぎや問題解決の可能性をキャッチする事が必要かつ重要で

### 「死にたい」を受け止め、問題の根を支える

自殺は誰にでも起こりうる危機です。自殺は一部の人や地域だけの問題ではなく、誰もが当事者となりう

「死にたい」という気持ちを受けとめつつ、各分野の必要な支援や制度を知識・経験としてしっかり身に付け、よりそいホットラインがもつ専門ラインの専門性を活かして連携し、相談者が生きるための選択が可能になる対応が出来る相談員を育成する事。そして、常に資質の向上を重ねていく事こそが今の「よりそいホットライン」自殺予防の電話相談として求められることと認識しこれからも研鑽をしていきたいと考えています。

フリーダイヤル つなぐ つつむ  
0120-279-226  
よりそいホットライン

誰でも、どんな悩みでも相談できる電話です。

24時間 通話料無料  
匿名ガイダンスが流れます。相談したいことを選んでください。

- 1 暮らしの中で困っていること、気持ちや悩みを聞いてほしい方
- 2 外国籍による相談 (Relative for Foreigners) 結婚、出産、帰国、就職、子育て、生活の不安、生活費、お金の相談、日本語の勉強、生活の相談
- 3 性暴力、ドメスティックバイオレンスなど女性の相談
- 4 特別や障害者などに関わる相談
- 5 自殺を考えた人はどう思っている方
- 6 10代20代の女の子の相談

岩手・宮城・福島専用  
0120-375-727

みやぎ 福社みやぎ



▲専門のスタッフがセラピー活動を行います

現在、セラピードッグとして活躍しているのは7頭、それ以外に犬2匹と猫1匹が訓練中で、そのほとんどが保護犬・猫とのことです。ワケありの動物で、性格が穏やかで人が好きなど、セラピーの氣質が備わっている子を引き取り、セラピー犬・猫になる訓練をしているとのことでした。

セラピードッグ

# Heart & Works

## 人と人をつなぐもの ～アニマルセラピーを通して～ NPO法人みやぎ動物介在福社会 With



NPO法人みやぎ動物介在福社会 With (以下ウイズ) は平成13年に発足し、市内の施設へ活動犬と共に訪問しふれあい活動を行うアニマルセラピーや、動物保護の支援、里親の募集などを行なっています。また、不登校児や障がいがある子どもたちへの学習サポートもしています。

アニマルセラピーとは？

アニマルセラピーは動物介在療法といい、動物を介したセラピー手法です。動物との触れ合いを通じ、生活の質の向上、情緒的な安定などの効果をもたらす機会を与える活動です。

全国で初めての団体

作業療法士として進路を見据えていた藤原代表ですが、動物を介したセラピー活動があることを知り、アニマルセラピーを学ぶことを決めたそうです。子どもたちの不登校が取り上げられてきた時代

不登校児へのサポート

ウイズでは、不登校児への学習サポートも行なっています。必要があれば学校と連携し、出席数やテストをウイズで受けるなどの調整を行なっているそうです。

「ウイズに来て学校に復帰できなかった子は1人もいません」と藤原代表。病気がなく、人間関係や勉強のつまづきなど、不登校の原因が精神的なものによる子どもに対して、ウイズは高い効果を発揮するそうです。まず、親も子どもも、今までの人間関係や現状を見つめ直すことから始めます。子どもたちは、ウイズに来て勉強をしたり、動物と触れ合ったり、一緒に散歩をしたり、1回45分という時間以外に決められたメニューはありません。動物たちとの関わりで癒されたり、学校の先生や親とは違う大人と話をしたりすることで、目の前の悩みから少しでも視野が広がるような、学校の勉強だけではない支援をウイズではされているようです。

立ち上げ当初ウイズに通っていた子どもたちは、社会人や親にな

背景もあり、アニマルセラピーを学ぶうちに「動物たちの良いところが悩んでいる子どもたちの役に立てるのでは」と思うようになっていきました。当時、不登校児への支援機関としてフリースクールはありましたが、そこでアニマルセラピーも行う団体はなく、まだ認知度の低かったアニマルセラピーの現状を考えると、藤原代表は「ずっと10年経ってもやりたいことをできる場所はない」と感じたそうです。専門の学校を卒業後すぐにウイズを立ち上げ、NPO法人として全国で初めてアニマルセラピーを取り入れた団体として活動を始められました。



▲藤原代表

アニマルセラピー活動

ウイズでは、月に7回ほど社会福祉施設へ訪問し、アニマル

っている子もいるそうです。大人になった子どもたちから「あの時ウイズに通っていてよかった」「実はあの時家の中が大変で…ウイズがあつてよかった」という言葉を聞くことが多いそうです。藤原代表は「この活動をしてよかったです」と満面の笑顔で話されます。先生であり、姉であり、時には母でもある藤原代表の優しさや厳しさ、動物たちの暖かさが子どもたちにとって、とても重要な役割となっていることを感じました。

人と人をつなぐ接着剤

セラピードッグと触れ合うことで、気持ちや和らいだり、支援機関に足を運びやすくなったり、新しい出会いにつながったり「動物は、人と人をつなぐ接着剤です」と藤原代表は話されます。アニマルセラピーの認知度も高くなり、施設からの要望も多くなっているそうですが、スタッフのほとんどが他にも仕事をしているため、人材が足りず対応しきれない状況だそうです。また、活動の性質上資金も十分とはいえないなか、それでも「この活動を続けていきたいです」といきいきと

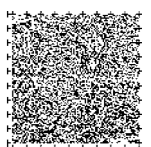
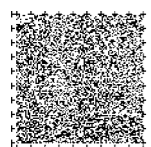
セラピー活動を行なっているそうです。その8割が高齢者施設、残りが障害児・者の施設で「訪問先の利用者さまは皆さん笑顔でいっぱいです」と藤原代表。施設職員の方から「実は…この席の方は、あまり笑わないんです」「普段はほとんどお話をされない方です」といった話を伺うことがあり、アニマルセラピー中の穏やかな様子を見ていると驚くことも多いそうです。「この子(セラピードッグ)たちはいるだけです、それだけで周りがハッピーになれる貴重な存在です」と藤原代表は笑顔で話されます。動物をみたり、触れたりすることで癒されるのは、年齢や性別などの枠を越えた共通のことのようですね。



▲セラピードッグとのふれあい

福祉施設の職員さまへ  
アニマルセラピーを実践してみませんか？  
アニマルセラピーを施設で初めて導入するにあたって、職員向けの導入レクチャーを行っています。金額はお気持ちで結構ですので、お気軽にご連絡ください！

連絡先  
NPO法人みやぎ動物介在福社会 With  
電話:022-797-7650  
メール:with@hot.dog.cx  
ホームページ:https://with-sendai.jp/





ひとまちこころ

## 個別支援から コミュニティケアの創造を

宮城県高齢者生活協同組合



▲泉老人福祉センター利用者のみなさん

宮城県高齢者生活協同組合（以下 高齢協）は、1,300人が加入している福祉生協です。「一人ぼっちの高齢者をなくそう」「寝たきりにならない、しない」「元気な高齢者がますます元気に」というスローガンを掲げて事業と運動をしています。

### 元気な高齢者がますます元気に

日本人の寿命は延び、誰も踏み込んだことのない前人未踏の高齢社会を迎えています。現役を退いた後の人生、二幕目が面白いという人がいます。二幕目のシナリオは自分で書き、自分が演じ、幕を引くのも自分だと言いつつ切ります。意気込みをもって、日没までの年月を自分らしくカッカよく生き切る、という覚悟なのでしょう。

高齢協では泉中央老人福祉センターの事業を仙台市から委託されていますが、ここを利用して健康、文化、生きがい作りをしている地域の方々の澆刺としている姿には目を覚ますものがあります。恒例の「平和学習会」では地域の組合員から仙台空襲の話をしていただき命の尊さを語り合いました。「親子クッキング」では、地域の子育て中のお母さんや子どもたちとお料理教室をしました。高齢者には年月の中で培われた経験や技術という財産があります。若い人たちには鋭い感性や思いがけない発想があります。世代間交流のできるステージ、活躍の場があれば互いに学び合い、理解が深まり互いの人生がより豊かになります。高齢協には、名取・石巻・仙台高森・若林にも地域の人たちが集う生きがいサロンがあり、講座や情報交流が行なわれています。

### 寝たきりにならない、しない

「病気や障がいがあっても人間らしい生活に

取得しました。

### やりがいはいくらでも ありますか

利用者さまに感謝されたときは嬉しいですね。また、自分を待たせていてくれる方もいて、「必要とされている」「役に立っている」と実感できることが頑張る基になっています。仕事の内容が今までやってきた家事の延長ということもあり、中高年のおばさん・おじさんが一杯必要とされ活躍できる場、それが訪問介護員だと思っています。

### 大変なところはどんなところですか

利用者さまのご自宅での仕事であり、たくさん見たり聞いたりしても、守秘義務もあるため自分で消化しないといけないのが大変です。また、利用者さまの困りごとがわかっても、保険外のことではできないのが苦しいですね。個人的な気持ちとしてはやった方が楽なので、利用者さまには、私たちが制度の中で仕事をしていることをご理解いただけるよう伝えています。ただ、仙台福祉サービス協会では、利用者さまの自費にはなりますが、制度外の要望に応える「うるおいサービス」という事業も行っています。



▲青葉ヘルパーステーション事務所内

### 心がけていることはありますか

メンタルケアを大切にしています。掃除や料理だけでなく、その方の不安や要望など、気持ちを受け止めることを心がけています。コミュニケーションをとることで、利用者さまの人生や存在を認める、ということも訪問介護員の役割の1つだと考えています。

また、利用者さま一人ひとりの好みや、やり方に合わせることも大切ですね。

### 訪問介護員の魅力を教えてください

誰かの役に立つ、必要とされているというのを本当に感じられる仕事です。仕事柄たくさんのお会いがあり、利用者さまの経験談や、おいしい料理の作り方など「教えてもらってラッキー！」と思える場面が多く

# キラリ仕事人

このコーナーでは福祉の職場で働くキラリ☆と光る人を紹介します



今号では、  
社会福祉法人  
仙台福祉サービス協会の  
青葉ヘルパーステーションで  
訪問介護員として働く大沼清子さん  
にお話を伺いました。

### 現在の仕事内容を教えてください

介護保険サービスをうけている利用者さまのご自宅へ伺い、掃除や料理など生活のお手伝いをする訪問介護の仕事をしています。  
高齢者や障害者、他にも仙台市からの受託事業の一環として精神疾患を抱えている方やひとり親家庭への訪問も行なっています。

### 資格をとったきっかけを教えてください

元々は事務職をしており、介護保険の始まる1年前に親の介護のため

## 【社会福祉法人仙台福祉サービス協会 青葉ヘルパーステーション】

住み慣れた地域で生活を続けたいと希望する高齢の方々や、心身に障害をお持ちの方々を支える「在宅介護」を実現し、心のこもった社会福祉サービスを提供しています。仙台市全域で5つのヘルパーステーションを運営し、400人を超えるヘルパーが訪問介護事業に従事しています。

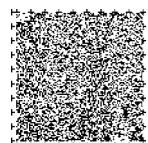


【お問い合わせ先】

〒980-0801

宮城県仙台市青葉区木町通1-4-15 交通局庁舎3階

電話：022-216-3724 FAX：022-216-3728



あります。自分の知らないことを知るのには楽しいですし、それが何歳になっても味わえるのも訪問介護員の魅力の1つですね。  
(宮城県社協取材)



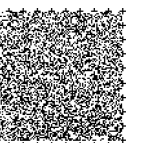
▲東日本震災復興「未来を考える集い」(石巻市内)

### お問い合わせ先

宮城県高齢者生活協同組合

〒981-8006 仙台市黒松1丁目14-25

電話 022-727-6577



# 地域づくりは「お宝」探しから！！

～角田市社会福祉協議会が目指す住民主体で支え合う地域づくり～

平成27年4月より施行された改正介護保険法による新しい総合事業の大きな特徴の一つは、「住民主体」の生活支援サービスを介護保険制度の中に位置付け、介護保険財源を活用して拡充を図ろうとしている点です。全国の市町村は、新たに設けられた生活支援・介護予防サービスの体制整備を図るための事業（法第115条の45号第2項第5号）（以下「生活支援体制整備事業」という。）の活用などにより、地域全体で多様な主体によるサービス提供を推進しようとしています。

今号では、地域資源の見える化などを応援する「生活支援コーディネーター」の活動を通し、地域のつながりや支え合いの重要性を住民に伝えている角田市社会福祉協議会（以下「角田市社協」）の取り組みを紹介します。



▲ワイワイガヤガヤ、にぎやかに協議体（ワークショップ）が行われています。

**「さまざまな住民活動を応援する仕組みが「生活支援コーディネーター」や協議体」**

生活支援体制整備事業では、住民主体の支え合い活動を地域に広めるため、住民参加による「協議体」の設置をすすめています。角田市でも地域包括支援センターと市社協が地域で活動しているキーパーソンに呼びかけて、平成29年12月に『第1回生活支援体制整備推進に関する会議（協議体）』を開催。「この事業の趣旨を会議参加者（住民）に伝え、生活の中の困りごとや支え合い・助け合いの必要性に対する住民同士の共感を育てていくことが、生活支援コーディネーターの役割の一つです」とお話しくださったのは、生活支援コーディネーターの岡本 圭一郎さん（市社協地域福祉係長）。また、「協議体が協議体にならないように、メンバーがお菓子を持ち寄り「ワイワイガヤガヤ」にぎやかな雰囲気の中で通りの会話を引き出せるよう工夫しています」とのこと。この事業は「サービスづくりではなく『地域づくり』。住民の声を直接聞き、住民と一緒に考えることが必要で、生活支援コーディネーターや協議体が有効に機能することが事業推進のポイントだといえます。

**「日常の何気ない「支え合い」に意味がある」**

岡本さんが言う通り「支え合い」

を広める鍵は、支え合いの必要性に対する住民の理解と共感です。介護保険サービス等の公的サービスがあれば十分であって、支え合いは必要ないと考えている住民や、行政サービスを住民に代替させるための制度と捉えている状況では支え合いは広まりません。さらに、自然な支え合いは外から見えにくく、地域で暮らしている人たちにとっては、あまり意識せずにいることが多く表出し難いものです。生活支援コーディネーターや協議体のメンバーがこれらを見つめ、「意味づけ・意識化」「見える化」することが、地域づくりの第一歩です。岡本さんは「人が集まるサロンのような所以外に、普段意識しないで行なっている支え合いや知恵・工夫等を「お宝」と呼び、これらを見つけてから地域づくりを始めています」と話してくださいました。

**「住み慣れた地域で生活を続けたらいい」**

角田市社協では、新たに地区ごとの『たまり場マップ』と、市内全体の『サロンマップ』を作成（見える化）し、「お宝」を地域の人達と共有しようとしています。住民は高齢・障害になっても、多様な通いの場、集いの場があれば、つながりの中でお互いを見守り・支え合って生活できるといふ事例を可視化し紹介しようとしています。

望ましい暮らしのあり方を思い描



▲生活支援コーディネーターが作成した「地域のたまり場」を紹介したマップ。

## 角田市社会福祉協議会

人口/30,028人  
(平成29年10月末現在)  
社協職員数/46人

住民のニーズに即したボランティア活動の支援や、サロン活動の推進、小・中・高生に向けて福祉防災学習などを実施している他、指定管理施設として指定を受けている障害者就労支援施設や児童館などの管理運営も行っています。



こうとすると、「いきいきと自分らしく暮らし」という決まってきた言葉があります。具体的にどのような暮らしを指すのでしょうか。それは、人と人とのつながりの輪の中で交流し支え合う事だと取材を通じて改めて実感しました。

(宮城県社協取材)

# ちいきをつなぐ

みやぎボランティア総合センターから  
ボランティア活動や防災活動、福祉教育など  
さまざまな情報を発信します

## 「ゆるやか」を愛し「ゆるやか」をフューチャー（未来）へ繋ぐ！ Fプロジェクト

もっと七ヶ浜町の役に立ちたい！

七ヶ浜町立向洋中の生徒有志による復興支援ボランティア組織「F（エフ）プロジェクト」(以下、Fプロ)を側面的に支える瀬成田実教諭は、平成27年9月から「命の大切さを知る、知識を総合的に学ぶ、社会参加の学力を身に付ける」ための震災総合学習を行いました。七ヶ浜町は東日本大震災（以下、震災）により甚大な被害を受けた地域であるにも関わらず、生徒は震災について深く学習する機会があまり無かったとのこと。しかし、この震災学習での学びを生かし生徒自らが「地域で役立つことをしたい」と思いはじめFプロが発足。震災の経験を中学生自らが語り部として伝える活動や、災害公営住宅入居者との交流等、様々な取り組みをしています。

活動を広げ、地域に根ざしていくために

平成29年1年間の活動の振り返りと平成30年への抱負を語り合う「忘望年会」を取材させていただき、卒業する3年生、活動を引き継ぐ1・2年生が「Fプロの活動が地域の役に立ったか」「今後どのような活動をしていくか」等、地域に喜んでほしいに貢献していくための



▲忘望年会では皆で七ヶ浜町を想う気持ちを熱く語っていました

中学生だからこの視点で

中学3年生の伊藤葵亜梨（いとつきあり）さんと、紀野國七海（きのくにななみ）さんにお話を伺いました。二人は震災当時、小学2年生、元々人の役に立ちたいという思いか

らボランティアに興味があったという葵亜梨さん。震災当時、瓦礫の撤去等をしているボランティアの姿を見て、私も何かしたい！と思ったという七海さん。Fプロを通して「震災の話は辛いけれど大切」「学校では学べない勉強が出来た」「地域の方々と出会い、コミュニケーション力が付いた」とのこと。地域の方と積極的に挨拶や世間話をする様子に、御家族も驚いているとのことでした。

卒業する2人ですが、「自分が住んでいる地区でも、きずな食堂※のように皆が気軽に集える場所があると良い」「津波到達地点のカードを自作するように改善したい」と、真剣に、そして目をきらきら輝かせながら、自ら課題意識を持ち七ヶ浜町が住み良い町であるようにと熱い思いをお話し下さいました。



▲紀野國七海（きのくにななみ）さん（左）と、伊藤葵亜梨（いとつきあり）さん（右）

Fプロの活動を通して、町を愛する心が育まれ、自分や家族から七ヶ浜町全体、そして世界へと視野が広がっていく様子に心を打たれました。地域住民との出会いから生徒たちに「やる気」が生まれ、新たに出来ることは何かを試行錯誤しながら楽しく活動をし、それが地域住民の共感を生み、地域を大切に思う気持ちが循環していく。頼もしいFプロの皆さんの活動が、今後さらに広がり深まっていく様子を注目でいていきたいと思えます。

※きずな食堂 28年12月・29年2・9月、七ヶ浜町内にて作られた地域の世代間交流の場にて開催された食堂にFプロも参加。



▲笑顔あふれるFプロジェクトの皆さん

# 「調和のとれた大原北区」を モットーに力を合わせて

女川町運動公園住宅（行政区名：大原北区）



▲住民有志による中庭の花壇づくり

平成26年4月に入居が始まった災害公営住宅「運動公園住宅」（200戸・8棟）は、女川町では珍しいマンションタイプの集合住宅です。一つの行政区として、平成26年7月に発足した「大原北区」の区長として、新しいコミュニティの中心となって地域づくりに取り組んでいる鈴木浩区長に、自治会運営や地区の新しい活動づくりなど、住民と一緒に取り組む工夫についてお聞きしました。

各棟の棟長が非常勤、各階班長が2か月交代など自治会の役割分担に工夫をされていますね

負担感を減らすため、規約を改定し行事など必要な時に棟長をお願いする方式にしたことで、「それくらいならやってもいいかな」と協力してもらっています。班長は多くの方が隣近所と話す機会を持てるよう、任期を短くしました。回覧板や区費の集金で隣近所を回り、月1回の班長役員会議で他フロアの班長や役員と顔を合わせる。これを短いサイクルで続けることで、住宅内に顔見知りが増え、フロアのつながりができました。上下階のつながりは、これからの行事で補い、繋いでいこうと思っています。

区長は200戸の住民の様子を把握されているように感じます

次の班長へ交替の連絡をするのですが、「自分からは言わない」という声があり、一律区長が声掛けすることになりました。3年間で全帯帯の状況、住民の個性や得意分野などが分かり、適材適所をお願いがしやすくなりました。行事の時には本人に直接の声掛けのほか、回覧板に協力がほしい方の名前を書いて「助けてほしい」と発信します。誰でもあてにされるのは嬉しいもので、快く協力してくれます。時には「自

分の名前が書かれていないが協力できる」と連絡が来ることもあります。また、後から入居される方には地区情報を提供し、「受け入れられた」と感じてもらうようになっています。

負担に感じることはありますか

大変ではありませんが、住民は協力的で、役員も動いてくれます。私はアイデアを出しても押し付けません。内容にもよりますが、すぐに決めず時間をおいて話し合い、徐々に進めていきます。常に住民と話ができる関係性、言うだけでなく一緒に動くことを大切に、またお願いすると同時にほめることを心がけています。これらは営業職時代に、お客さんと現場で一緒に働いて信頼関係を築き、結果お客さん全体から信頼を得た経験から学びました。

集合型公営住宅で生活する上で何が大切だと思いますか

大原北区の住民は同じ屋根の下で暮らす家族のようなものです。集合型の住環境がまとまりを作るにはかえってよかったと思います。最初はルールがバラバラだった「ゴミ出しも、あえて当番は設けず住民に管理をお願いしたところ、気づいた人が片づけるようになりました。皆とても協力的で、何をやるにも嫌とは言

いません。仮設での暮らしで、助け合いや自分たちでやることを通して意識が変わったのだと思います。社協の支援員が住民の気持ちを育ててくれたことも大きいです。

これからの課題がありましたら教えてください

今担い手となっている70〜80代の次を引き継ぐ世代に空白があることが課題です。高齢になり体調を崩す人も出るでしょう。支援員がサポートしてくれている間に、気にかけて声をかけあう意識や仕組みづくりを進めなくてはと思っています。

鈴木区長のモットーは「調和のとれた大原北区」。隣近所の顔が見えづらいう集合住宅ですが、大原北区は町内でも屈指のコミュニティが形成された団地に発展しました。住民同士で協力し合いながら、区長自ら先頭に立って取り組む熱意に引張られ、住民一人一人の意識も高まっています。そのような大原北区の姿は、他地区の活性化の促進にもなっています。女川町の地域づくりにこれからも注目していきたいと思っています。

（宮城県社協取材）



## 伝統芸能、フラダンス、ハーモニカ演奏で施設訪問 宮城いきいき学園大崎校同窓生「南京玉すだれ連愛好会19」

今回は、大崎校の同窓生で組織する「南京玉すだれ連愛好会19（ナインティーン）」をご紹介します。

同愛好会は、会長の加藤喜弘さん（70歳）が大崎校1年生の時に「南京玉すだれ」を習っていたことから19期生の仲間と平成24年4月に立ち上げ、卒業時に正式に発足。会員の18名は月1回の練習に欠かさず参加し、演技の上達に余念がないそうです。

加藤さんは、時間もあって何かやりたい・表現したいと思いつく、以前から興味を持っていた南京玉すだれの趣味の会に入会したのがきっかけで、楽笑師匠に師事し平成25年に目出度く「楽笑喜之助（らくしよきすけ）」を名乗る認定書を授与されたそうです。芸名の喜之助は、池波正太郎の著書、鬼平犯科帳に登場する大盗賊「喜之助」が捉を固く守って盗（つと）める所が好きになり、助けたい気持ちになって頂戴したと話してくださいました。

南京玉すだれは演者が長さ33センチ、56本の竹製の簾（すだれ）を持ち、唄にあわせて踊りながら簾を変化させて釣竿、鳥居、鯛、稲穂などに次々に変えて見せる日本発祥の伝統芸能の一つなので、未来に引き継いで行きたいと話されていました。



（宮城県社協取材）



▲施設訪問での「南京玉すだれ」の演技

愛好会は各種施設を訪問してフラダンス、ハーモニカ演奏、唄、最後にメインの「玉すだれ」を披露しますが、訪問先の皆さまと一緒に手を叩いたり、歌い、笑ってくれたり、輪の中に入って握手をすることが多いです。「そこで得られないふれあいは何事にも代え難いもので大切にしていく」と加藤さん。他にも地区のお茶つこ会や夏祭りなどの行事に参加し交流と親睦を深めているそうです。

愛好会は大崎校2年生の時にボランティア活動で初めて施設を訪問して以来、卒業してからの活動が5年になります。会員も高齢化していますが、これまでに約60回活動している実績があり、今後は100回を目標に活動を続け、地域に貢献していきたいと元気に話してくださいました。

地元で安心

# 宮城県地域福祉総合補償制度

宮城県内の福祉施設・介護事業者向けの総合補償制度

本制度は事故対応はもちろん、事務手続きなどのアフターフォローは全て地元で行いますので安心です。是非ご加入をご検討ください。

- (I) 福祉事業者賠償責任保険
- (II) 保育施設賠償責任保険
- (III) 医療行為賠償責任保険
- (IV) 個人情報漏えい保険
- (V) 業務災害補償保険
- (VI) サービス利用者傷害見舞金保険
- (VII) 送迎自動車傷害保険
- (VIII) 日帰りサービス利用者傷害保険

29年新設し、ご好評いただいております

◆役員賠償責任保険（社会福祉法人専用プラン）29年法施行対応版◆

★更新の時期です！ 平成30年制度への切替の時期です。早めのお手続きをお願いいたします。

お問合せ

社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 TEL022-225-8476 ※この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。  
三井住友海上火災保険株式会社 TEL022-221-3171  
株式会社オンワード・マエノ TEL022-762-9915